

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 5 月 30 日

所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	石塚真太郎

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
宮崎県幸島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
幸島実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 27 年 4 月 25 日 ~ 平成 27 年 5 月 1 日 (7 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
WRC 高橋明子氏 鈴木崇文氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の幸島実習は、野生霊長類研究の計画からデータ解析、発表までの一連の流れを経験することを目的とし、以下の日程で行われた。
2015/4/ 25 集合、統計の講義 2015/4/26 予備調査 2015/4/27 データ収集 2015/4/28 データ収集 2015/4/29 データ分析 2015/4/30 データ分析、発表 2015/5/1 解散
幸島は日本霊長類学発祥の地として知られている。現在は2群96個体のニホンザルが生息しており、毎朝技術職員による給餌が行われている。
テーマについては、事前にぼんやりと考えていた。私は様々な霊長類の社会に興味があるので、個体間の社会性を研究したいと思っていた。特に順位関係が厳しいと言われるニホンザルにおいて、優位個体が劣位個体に対してどのような時に寛容になるのかに関心があったので、赤ん坊のいる高順位メスはいない場合と比べ、他個体に対して寛容になるという仮説を検証したいと思っていた。しかし、予備観察の段階で有意差は出なさそうだと感じ、断念した。今後、是非知ることができればと思う。
そこで研究したのが、被攻撃時の逃避行動であった。順位関係が厳しいニホンザルでは、攻撃交渉は一方的に生起する。よって、しばしば劣位である被攻撃個体の逃避行動戦略を理解することは、ニホンザル社会における劣位個体の優位個体との接し方を理解することにつながると思ったからだ。方法としては、砂浜全体をビデオカメラで録画し、給餌場のほぼ全域となる領域に区画を設定し、その中で生起した被攻撃個体の逃避行動の方向と利用空間を記録した。結果として、有意差はなかったものの、逃避行動は給餌場の内側よりも外側の方向に起こることの方が多く、利用空間も区画の外の割合が多かった。一方で本研究はサンプル数が少なかったことなどから、正しい逃避行動の傾向を明らかにすることができたとは思わない。しかし、初めて霊長類の同種攻撃交渉時の逃避行動の知見が得られたという点で意味があると思う。
このテーマの研究はすごく難しかった。しかし今になって思えば、複雑なのは想像できたことだ。改めて研究の計画を立てるときは、どれだけ具体性を持って考えるかが大事だと感じた。どんなデータをとれば、どんな数値や差が出て、どんな解析をすれば、どんなことが示すことができ、どのような考察ができるか。また、解析は自分に行えるものなのか。このようなことを一つ一つ具体的に考えていく必要があるのだと思った。今後私が研究する予定のボノボの集団間の繁殖の割合についても、どのようなデータが得られ、どのようなことが言えそうなのかをもう一度再考しないといけないと思う。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



幸島のニホンザル



給餌場のムギを数えるために用いた写真



宿泊所で議論する様子

6. その他 (特記事項など)

本実習は、PWS リーディング大学院プログラムの支援を受けて遂行できました。PWS プログラムおよび指導して下さった半谷先生、鈴木氏、高橋氏に感謝申し上げます。